

久保寺逸彦氏旧蔵アイヌ民具資料ほか

—2019年度新収蔵資料の紹介—

大坂 拓・亀丸由紀子・鈴木あすみ

目次 はじめに

- 1 草野芙美子氏寄贈資料
- 2 貝澤守氏複製資料
- 3 久保寺逸彦氏旧蔵資料
- 4 阿寒湖畔熊送り儀礼関連資料
- 5 その他の送り儀礼関連資料

Key Words アイヌ民族 (Ainu)、マキリ (Knife)、久保寺逸彦 (KUBODERA Itsuhiko)、阿寒 (Akan)

はじめに

本稿では、北海道博物館アイヌ民族文化研究センターが2019（令和元）年度に寄贈を受けた民具資料2件2点のほか、館内所在の未登録民具資料の整理を進める中で確認が終了し登録を終えたものとして、アイヌ文学研究者の久保寺逸彦氏（1902～1971）旧蔵資料82点、1975（昭和50）年に釧路市阿寒町阿寒湖畔で実施された熊送り儀礼の関係資料119点、その他の送り儀礼関連資料19点の総計222点について、資料の概要を報告する。

執筆は1を亀丸、はじめに・2・3・4・5（1）・（3）を大坂、5（2）を鈴木が担当し、協議のうえ大坂がとりまとめた。

（大坂）

1 草野芙美子氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

本資料（図1：1）は、草野芙美子氏が夫君である草野重満氏の遺品として保管していたアイヌ民族の小刀で、重満氏が入手した時期や経緯は不明である。保存状態は比較的良好なことから、2019（平成31）年2月15日開催の資料審査会にて受け入れが承認され、資料番号184806として登録を行った。

なお、草野芙美子氏からは2013（平成25）年に文書資料の寄贈を受けており、今回はそれに次ぐものとして、

武芸免許状三巻とともに受け入れた。

(2) 資料の特徴

全長25.5cm、鞘のみでは16.2cm、柄のみでは25.4cmで、刃渡り14.5cmの刀身が使用されている。鞘の最大厚は1.8cm。柄と鞘はともに一木を削り抜いたもので、使用されている木材は不明である。刀身は削り抜かれた柄の部分に嵌め込まれている。資料の上部には、30cmほどの赤色の木綿紐を用いた下げ紐が通されている。

刀身にはサビが確認されるが、状態は安定している。木材部分には一部腐食と乾燥によるヒビや質量の軽量化、欠損が確認される。また、表面には劣化防止のためニス塗った形跡が認められる。このニスは木材の劣化が進行してから行われた処置の可能性が高い。

(3) 類例

本資料に類似する資料として、旭川市博物館（収蔵番号：4478 河野広道氏収集、河野本道氏寄贈（1972年））、北海道博物館（同：41392）、釧路市立博物館（同：461番）などの存在が確認できる。

このうち旭川市博物館所蔵の小刀は、彫刻の彫りの深さや文様の構図など本資料に酷似した特徴を示し、塗りや根付等の処理の違いはあるが、同一の作者によって制作された可能性が高い。

（亀丸）

2 貝澤守氏複製資料

(1) 資料収集の経緯

本資料(図1:2)は、当館職員の杉山智昭を研究代表者とする科学研究費助成事業(学術研究助成金助成金・基盤研究C)「X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究」(課題番号17K01204)による研究の一環として、平取町立二風谷アイヌ文化博物館が所蔵する小刀(資料番号KT-060-2)のレプリカ作成を伝統工芸家、貝澤守氏に依頼したもので、2019年6月30日に納品され、8月21日付で研究代表者より当館に寄贈された。資料番号は185143である。

(2) 資料の特徴

全長は鞘と柄を組み合わせた状態で30.0cm、鞘のみでは20.1cm、柄のみでは24.0cmで、刃渡り13.2cmの刀身が使用されている。柄と鞘ともにイタヤカエデを用い、柄は一木を削り抜いたものに刀身を嵌め込み、鞘は二枚の板材をあわせたものの両端に内部を削り抜いた鹿角を嵌め込んで固定している。表面は着色と燻し加工が施されている。

(大坂)

3 久保寺逸彦氏旧蔵資料

(1) 資料収集の経緯

アイヌ民族の口承文芸及び信仰の研究で知られる久保寺逸彦氏の旧蔵資料を旧北海道アイヌ民族文化研究センターが受け入れた際に、ノート類や文書、写真、映像等はそれぞれ目録が刊行されたものの、民具類については整理に着手できないまま、組織統合に伴い北海道博物館に引き継がれた。今年度は民具資料の全点(81点)、及び民具資料と同じ箱に保管されていた撮影用機材1点についての収集が2019年9月開催の第5回資料審査会で承認された。登録番号は180062~180118である。なお、久保寺氏関連の資料としてはこのほかにも撮影・録音用機材の存在が確認されており、それらについては次年度以降、整理登録後に改めて紹介する予定となっている。

資料の収集年代は1930年代から70年代まで、久保寺氏の研究活動の全期間に及んでいるものと推定されるが、久保寺氏が資料に背景情報の注記などを施していた様子はなく、付されているタグや朱書きも、久保寺氏の所有品であることを示すものに限られている。ノートなどの記録も現在のところ確認されていない。これは同時期に資料収集を行った名取武光氏や河野広道氏らがしばしば資料本体に詳細な注記を行っているのは極めて対照的であり、動植物標本資料の管理などを通じた体系的なト

レーニングを受けていなかったことや、物質文化への関心の相対的な低さが影響している可能性が考えられよう。

(2) 関連資料との対比が可能な資料

関連資料との対比から収集地及び収集年代が推定可能なものは以下の24点である。

有翼酒箸(1点)

180081(図2:1)は全長39.3cm、幅2.3cmで、ヤナギの半割材を素材とし、表面に3か所の翼を作り出す。翼は通常の木幣製作とは異なり、刃物を手前から奥に押し削る動作によって、短く丸みの強い形態を作り出している。先端側と中央の翼の中間を大きく削り込み、刃物で3本の線を刻んだのち、中央部のみを両側から削り落とす。

本資料には背景情報は伴っていないものの、名取武光氏が記録した千歳市蘭越(旧ウサクマイ)の資料に関する記述(名取1949)、北大植物園・博物館が所蔵する「千歳卯柵舞」、「千歳蘭越」の背景情報を伴う資料(図2:2・3)と細部まで特徴が一致している。有翼酒箸は属性の組み合わせの地域差が詳細に明らかにされており、特徴の一致は偶然とは考えにくいことから、同地での収集である可能性は極めて高い。久保寺は、1934年に口承文芸の録音、1952年に記録映画「アイヌの川漁」の撮影のために千歳市を訪問していることから、こうした機会に入手された可能性がある。

串(22点)

全長25cm前後の180085-1~8と、全長20cm前後の180086-1~14の二群が認められる(図2:4)。いずれもヤナギを素材として、粗く縦に割ったのち、削って形態を整え、一か所に削りかけを付ける。細く削り出された先端側は刃物の削り跡の上を丸く滑らかに仕上げしており、刃物の背などでしごいたものと推測される。

削りかけが付されていることから、熊送り儀礼の際に熊神の肉を参列者に配るためのものと考えられ、形態の斉一性が強いことから、同一の地域、同一の儀礼に際して製作された可能性が想定できる。

久保寺氏は、1936年に記録映画の撮影を目的として、平取町二風谷で二谷国松(nisuk-rekkur)氏に依頼し、鹿戸三助(inoncaruk)氏を祭司とする熊送り儀礼を実施しており、この際に撮影された写真の中に本資料に極めて類似したものが確認できる(図2:5)。資料はこの写真に写るものと同一、ないし同時に製作され、久保寺氏によって収集された可能性がある。

縄 (1点)

180073 (図2:6) はエゾイラクサの繊維を撚り合わせた縄で、上述の串と同じく、1936年の熊送り儀礼の記録映画撮影に際して撮影された写真の中に、よく類似した特徴を示すものが確認できる (図2:7)。アイヌ語沙流方言でheper tus (萱野1978:298-302) と呼ばれる、熊神を引くための縄と推定される。

その他、木綿衣1点は1930年代に久保寺氏が着用している写真があるほか、残る1点は1950年代に先述の「アイヌの川漁」撮影中に鶴川で撮影された写真の中に着用者が確認できる (図3:4)。ただし、鶴川で撮影された写真の中で使用されている荷縄は現在、国立民族学博物館に所蔵される資料 (K0002273) に酷似している。同資料は東京大学理学部人類学教室の旧蔵品として1939年に刊行された『内外土俗品図集 第9輯』にも掲載されているから、撮影に際して小道具として貸し出された事例と考えるのが妥当だろう。衣服についても、写真は収集年代の下限を示すのみで、収集地を示すものと判断することは出来ない。

(3) その他の特徴的な資料

その他、形態の特徴から収集地に関して一定の推測を加えることが可能な資料として、下記のものがある。

編袋 (2点)

180062 (図4:1) は編台を使用して製作されたもので、経材にはシナ内皮の撚糸、撚りをかけない繊維束を使用し、それぞれの一部に黒褐色に染色したものを用いる。緯材はシナ内皮の撚糸。緯材は11段で、底部から3段目にかけて径を広げている。編台から外して各段の緯材端部を結束して袋状にしたのち、口縁部側に出る経材3-4本をまとめてZ撚りし、それらを袋の口を上から見て時計回りに三つ編みにして口縁部を作り出す。このときに、そのまま編み進めると口縁部が太くなるため、余分な素材を内面側に出して切断することで、太さを一定に保っている。編みが一周して編み始めと重なる部位は別糸を用いて縫いとめ、先をのぼして提げ紐とする。本資料の特徴は筆者分類 (大坂2019) のII a3類に該当し、日高地方西部を中心に分布することが明らかになっている。

180063 (図4:2) は経材にはシナ内皮の繊維を裂き、撚りをかけないものを用い、一部に黒褐色に染色したものを混ぜる。緯材にはシナ内皮の撚糸を用い、一部には褐色に染色した繊維が混じる。底部中央にあたる部分で、経材となる染色しない繊維束と染色した繊維束を十字に重ねて別糸で結束し、緯材は底部中央から反時計回りに

螺旋状に編み始め、2周目に入る箇所では経材に染色しない繊維を6本編みにしたものに加え、胴部の径を大きくしている。13周目から14周目にかけて緯材の間隔を徐々に狭め、末端は結束する。口縁部の製作技術は180062と同様である。本資料は筆者分類のI a3類に該当し、底部・口縁部が円形をなす資料は日高地方西部を中心に分布することが明らかになっている。

荷縄 (2点)

180069 (図4:3) は経糸にシナ内皮を用い、額当てには経糸32本と、緯糸にイラクサないし麻の糸を1本取りで使用。編みは技法C (大坂2018)。分岐部は外側の2本を [1-2/2/2/2/2] の11本編み、内側の2本を [1-2/2] の5本編みで編み上げ、1本にまとめる部分には別糸を用いて技法A1で編んだのち、[1-2/2/2/2/2] の11本編みで編み進め、末端はS撚りの縄としている。縄の部分の長さは片側122.0cm、135.5cmと短いものの、額当ては大きく、木製の棒と組み合わせて子負に使用した可能性が想定できる。

額当てが技法Cで編まれた資料は、伝世品ではこれまでペンシルバニア大学所蔵の白老町収集資料を含めて2例が知られているのみで、極めて類例が少ない。分岐部から1本にまとめる部分を別糸で編みこむ手法も、僅かに白老町で収集された2点の類例が知られているにとどまる。

180070 (図4:4) は経糸に麻糸を用い、額当てには経糸36本と、緯糸に黒色と白色の木綿糸をそれぞれ2本取りで使用。編みは技法B1。分岐部は外側の2本を [1-2/2/1/2/2] の10本編み、内側の2本を [1-2/3/2] の8本編みで編み、1本にまとめる部分は [1-2/2/2] の7本編みで編んだのち、3つ編みを経てZ撚りの縄とし、端部を結束している。縄の部分の長さが片側126.5cm、121.5cmと極端に短いこと、額当ての小ささから、葬送儀礼用である可能性が高い。なお、本資料はゴザ製鞆 (図4:6) の中に納められていた。

葬送用広紐 (2点)

180067 (図5:1) はエゾイラクサの靱皮を素材とし、[1-2/3/2] の8本編みを26cm編み進めたものを二つ折りにして重ね合わせ、本数を調整して [1-2/2/2/2/2/2/2] の15本編みにして386cm編み、端部は2本の [1-2/2/2] の7本編みとする。同様の特徴を持った資料は浦河町から洞爺湖町虻田にかけて分布しており、資料の特徴から収集地をこれ以上絞り込むのは難しい。

180068 (図5:2) はシナ内皮を素材とし、染色しない撚糸4本、茶褐色に染色した撚糸1本を、2本・2本・1本にまとめて三つ編みにし、14cm編み進めたものを二

つ折りにして重ね合わせ、[1-2/2/1/2/2] の10本編みにして371cm編み、端部は繊維を二つに分け、Z撚りとする。同様の特徴を持った資料は浦河町から新ひだか町静内、虻田町、豊浦町にかけて分布しており、これも資料の特徴から収集地をこれ以上絞り込むのは難しい。

(大坂)

4 阿寒湖畔熊送り儀礼関連資料

2016年度に確認した際には、「S50 白老イオマンテ？」とマジック書きされた段ボール箱3箱に収納されていた。内部を確認したところ、箱書きと異なり北海道東部の特徴を示す木幣類が確認されたことから、1975（昭和50）年当時の北海道開拓記念館学芸員、藤村久和氏より聞き取りを行ったところ、1975（昭和50）年に阿寒湖畔で実施された熊送り儀礼の際に一括して収集され、その後、未登録の状態で収蔵庫内に保管されていたことが明らかになった。

熊送り儀礼で熊神の装飾に使用する「ポンパケ」、「カムニンカリ」と呼ばれる装飾品など類例が少ないものを含む重要な一括資料であることから、資料登録を2019年9月開催の第5回資料審査会に諮り、受け入れが承認された。資料番号は185209～185273である。

本資料は、儀礼の状況を記録した写真類などが豊富に存在することが予想されることから、今後、それらとの比較検討を進めたいと考えている。

(大坂)

5 その他の送り儀礼関連資料

(1) 資料収集の経緯

2016年度に茶箱3箱に納められた状況で確認されたもので、元職員の藤村氏に聞き取りを行ったところ、大部分が1970年代後半に千歳市及び白老町で収集したものであることが確認された。千歳市桂木地区で熊獵に携わっていた男性が自宅裏側の祭壇に祭っていた熊神頭骨や、白老の家庭で守り神とされていたキツネなど希少な資料を含むことから、2019年9月開催の第5回資料審査会に諮り、登録が承認された。資料番号は185274～185292である。

本資料群については、基本的な情報を表1に示し、鈴木が担当した同定に用いた計測値などは別に表2として示した。

(大坂)

(2) 獣骨の種同定

方法

17点の哺乳動物の骨形態から、部位の特定および種の同定を行った。資料には頭蓋部分が多く含まれた。同定は阿部（2000）に基づいて行い、その他参考文献として今泉吉典（1960）、Ohdachi et al.（2015）、松井（2008）を使用した。これらの文献情報に基づいた種同定を試みたが、計測部位の欠損等のため、データを十分に収集できない資料が存在した。そのため、その他の自然史標本（実物・撮影画像含む）との照合も併せて行った。

頭蓋の計測項目は頭骨最大長、基底全長（以下、CBL）の2項目のほか、科ごとに以下の計測を追加で行った。イヌ科：第1～3前臼歯列の距離（以下、P1-P3）、第4前臼歯～第2後臼歯列の距離（以下、P4-M2）。ウサギ科：翼状骨間窩（後鼻孔）の幅、骨口蓋橋（口蓋骨水平板+上顎骨口蓋突起）の前後長（最狭部）。下顎骨の計測項目は下顎骨長のみ1項目とした。計測には150mmまではノギス（ミットヨ、N15、最小計測単位0.05mm）を使用し、150mm以上はメジャー（クロバー、ロングメジャー200、最小計測単位1mm）を使用した。

結果

各資料について、部位および計測値、同定結果を表1に示す。なお、本稿では種レベルの同定に留め、亜種以下の検討は行っていない。また同定結果に再検討の余地があるものは種名の末尾に「？」を付した。

185274～185279の7点は頭蓋および歯の形態から、中型のイヌ科哺乳類であることがわかった。タヌキ *Nyctereutes procyonoides* とアカギツネ *Vulpes vulpes*、イヌ *Canis familiaris* の3種が北海道に生息する（Ohdachi et al. 2015）。地域絶滅種オオカミ *Canis lupus* を含めた4種の相違点であるCBL、後眼窩突起の形態および下顎骨の形態などから総合的に判断し、同定を行った。

185280, 185281の2点は頭蓋の形態から、ウサギ科哺乳類と判断した。北海道に生息するウサギ科哺乳類はユキウサギ *Lepus timidus* のみであるが、家畜として持ち込まれた可能性を考慮し、ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* およびアナウサギ *Oryctolagus cuniculus* を含めた3種を想定し同定を行った。

185282～185287、185291、185292の8点は頭蓋の形態から、クマ科哺乳類と判断した。また、これら資料には下顎骨も含まれたが、今回は対象外とした。北海道に生息するクマ科哺乳類はヒグマ *Ursus arctos* のみだが、185292については本州由来のツキノワグマ *Ursus thibetanus* であることがラベルに記されていた。加齢による成長を考慮するため、185282～185287、185291

の各個体の齢の推定を行った。非侵襲的な方法として、頭蓋骨の縫合および軟骨結合の消滅による方法（末永 1972、Zavatsky 1976）を使用し、成獣と若齢個体の2カテゴリに分類した。185288については複数の部分骨から構成され、これらが同一個体由来であるか不明であり、対象から除外した。各資料の特徴を以下に記す。

185274：アカギツネ

頭蓋および下顎骨に付随し、皮膚および筋が乾燥した状態で残存していた。後頭部の体毛がわずかに残存し、脳や眼球、舌等の軟組織は取り除かれていた。CBLは137.4mmであった。後眼窩突起は頭骨上面を覆う「削りかけ（木製装飾）」により観察が困難であった。下顎骨下縁の形態は、角突起より前方はゆるやかにくぼみ、段状ではなかった。上顎犬歯の長さは左側では下顎下縁に達し、右側は下顎の幅の4分の3程度であった。タヌキの場合、上顎犬歯は下顎の幅の半分ほどである（阿部 2000）ため、本資料の特徴とは異なる。CBLおよび上顎犬歯の長さより、頭骨はアカギツネのものと同定した。

185275：タヌキ

頭蓋がほぼ完全な形で残っていた。右頭頂骨に穿孔がある。頭頂間骨と頭頂骨の癒合状況から成獣である。計測値は頭骨最大長が111.9mm、CBLが111.7mmであった。P1-P3は16.2mm、P4-M2は21.1mmと後者が大きい。後眼窩突起は細長く、やや後方に向く。以上の特徴より、タヌキと同定した。

185276：アカギツネ

上顎骨、鼻骨、切歯骨等頭蓋の前部が欠損していた。右頭頂骨に穿孔あり。鋤骨前端から後頭顆後端の長さは112mmであり、上顎骨および切歯骨の長さを考慮するとCBLは112mmよりも大きかったものと推定できる。後眼窩突起の先端は直角に尖り、やや後方を向く。以上の特徴より、アカギツネと同定した。

185277：タヌキ

頭蓋がほぼ完全な形で残っていた。計測値は頭骨最大長が110.8mm、CBLが110.5mmであった。P1-P3は15.5mm、P4-M2は20.2mmと後者が大きい。以上の特徴より、タヌキと同定した。

185278：アカギツネ？

右上顎骨のみ。頭骨全体の大きさは計測不能であった。P1-P3は25.5mm、P4-M2は22.4mmと前者が大きい。資料の前後端を長軸に沿って計測した長さは53.1mmであった。歯列の長さがタヌキと比較して全体に大きく、

比率も異なりキツネによく似る。本稿ではアカギツネと同定したが、骨格全体の形態比較は困難であったため、異なるアプローチの検討を要する。

185279：タヌキ

下顎骨のみ2点（右下顎骨および左下顎骨）の資料であった。両者ともに筋突起の上端後側が張り出す。同様に、下顎骨下縁の形態は、角突起より前方には明瞭な凹部があり、段状になっていた。これらの下顎下縁の形態から、タヌキと同定した。また、2点を比較したところ下顎骨長に差があり、歯の損耗度も異なったため、2点は別個体のものと考えべきだろう。

185280：ユキウサギ

頭蓋の多くが残っているが、鼻骨、右頭頂骨、頭頂間骨、後頭骨などが欠損していた。頭骨最大長は90.0mm（後頭骨および頭頂骨の欠損のため参考値）であった。翼状骨間窩の幅は9.5mm、骨口蓋橋最狭部の前後長は8.4mmであったことから、アナウサギの可能性は否定された。後眼窩突起の前端の湾入は深く、幅広い。眼窩前下縁は角ばりが鋭かった。以上の特徴からユキウサギと同定した。

185281：ノウサギ属の一種

後眼窩突起および鼻骨を含む、頭蓋上部および後部が大きく欠損していた。翼状骨間窩の幅は9.5mm、骨口蓋橋最狭部の前後長は8.7mmであったことから、アナウサギの可能性は否定された。左眼窩前縁と頬骨弓上縁のなす角度は約60度であり、ニホンノウサギに似た形態の特徴を示した。本資料は欠損部が多く、前述の形質のみで同定することは困難である。人為的に持ち込まれたノウサギ属*Lepus*の可能性も踏まえた再検討の余地がある。

185282：ヒグマ

後頭部に切断された跡があり、後頭骨および鼻骨が欠損していた。若齢個体であり、欠損部を除いた、頭骨前端から後端までの長さは275mmであった。そのため、頭骨最大長は275mmより大きかったものと推定できる。以上の特徴よりヒグマと同定した。

185283：ヒグマ

右頬骨弓が欠損していたほか、蝶形骨の周囲に破損がみられた。左頭頂骨に穿孔あり。成獣であり、頭骨最大長は307mm、CBLは289mmであった。以上の計測結果より、ヒグマと同定した。

185284 : ヒグマ

上顎切歯および犬歯、第1~3前臼歯を欠くが、大きな欠損はなかった。左頭頂骨に穿孔あり。成獣であり、頭骨最大長は292mm、CBLは288mmであった。以上の計測結果より、ヒグマと同定した。

185285 : ヒグマ

両切歯骨、両鼻骨、左頬骨、基底後頭骨が欠損し、上顎骨の一部にも破損がみられた。右頭頂骨に穿孔あり。ほとんどの縫合が閉鎖せず、若齢個体であった。欠損した切歯骨を除いた、頭骨前端から後端までの長さは227mmであったため、実際の頭骨最大長は227mmよりも大きかったものと推定できる。ツキノワグマ成獣の頭骨最大長が189.0~265.2mm(阿部 2000)であることから、若齢個体で227mm以上になる可能性は低い。以上の特徴より、ヒグマと同定した。

185286 : ヒグマ

乾燥した筋が全体に付着していた。大きな欠損はなく、左頭頂骨に穿孔あり。成獣であり、頭骨最大長は313mm、CBLは293mmであった。以上の計測結果より、ヒグマと同定した。

185287 : ヒグマ

切歯骨および鼻骨、左頬骨が欠損していた。左頭頂骨に穿孔あり。185285と同様に、縫合線のほとんどが閉鎖せず、若齢個体であった。欠損部を除いた、頭骨前端から後端までの長さは248mmであった。そのため、実際の頭骨最大長は248mmよりも大きかったものと推定できる。以上の特徴から、ヒグマと同定した。

185291 : ヒグマ

上顎切歯および第1~3前臼歯を欠くほかに大きな欠損はなく、穿孔はない。成獣であり、頭骨最大長は290mm、CBLは285mmであった。以上の計測結果よりヒグマと同定した。

185292 : ツキノワグマ?

上顎と下顎が含まれる。頭骨全体を覆うように毛皮が被されていたため、頭骨の全様を観察することはできなかった。後頭顆、頭頂間骨および切歯骨は観察可能だったため、頭骨の計測を試みた。頭骨最大長は約193mm、CBLは約215mmであったが、いずれも参考値である。10%程度の誤差を見込んで、両計測値はヒグマの範囲外であることから、ツキノワグマである可能性が高いと思われる。

(鈴木)

(3) 資料の特徴

185274 (図13:1~3) はキツネの頭骨を剥幣で包んだもので、アイヌ語沙流方言でkimun siratki kamuyなどと呼ばれるもの。頭骨は左側面を穿孔して脳を取り除き、丸く固めた剥幣を充填する。口腔には細長く縛られた剥幣を挟み込んでおり、舌にみたてたものと見られる。両側面には結束した剥幣を取り付け、上顎の鼻先に近い部位に剥幣を強固に結束し、そこに多数の剥幣を挟み込んで後部に向けて垂らす。下顎骨の下面には刃物による加工痕跡が認められる(図13:3)。これは、御神体の一部を削り取って薬として服用する習慣が知られていることと関連するものだろう。

(大坂)

謝辞

資料をご寄贈下さった方々と、本稿を纏めるにあたりご教示賜った貝澤守氏、藤村久和氏、山本栄子氏に対し、末筆ながら心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 阿部永 2000. 日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学図書刊行会.
今泉吉典 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社.
大坂拓 2016. 北海道アイヌの儀礼用冠についてー北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討ー. 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター紀要 1: 23-42.
大坂拓 2018. アイヌ民族の荷縄ー地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討ー. 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター紀要 3: 19-50.
大坂拓 2019. アイヌ民族の編袋ー地域差と年代差、及び「土産物」・「伝統工芸品」としての継承ー. 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター紀要 4: 25-60.
萱野茂 1978. アイヌの民具. すずさわ書店.
末永義圓 1972. エゾヒグマ頭蓋の形態学的研究II. 縫合および軟骨結合の消滅順位について. 日本獣医学雑誌 34: 71-78.
名取武光 1949. 千歳アイヌの祖印. 民族学研究 13(4): 377-381. (1974. 名取武光著作集II アイヌと考古学(二)に再録)
松井章 2008. 動物考古学. 京都大学学術出版会.
Zavatsky, B. P., 1976, The use of the skull in age determination of the brown bear., Bears: Their Biology and Management: 275-279.
Ohdachi Satoshi D., Ishibashi Yasuyuki, Iwasa Masahiro A., Fukui Dai, Saitoh Takashi, eds. 2015. The Wild Mammals of Japan Second Edition. Shoukadoh Book Sellers and the Mammal Society of Japan.



1 資料番号 184806



2 資料番号 185143



図1 草野扶美子氏寄贈資料及び貝澤守氏複製資料



1 資料番号 180081



2 参考資料 (北大植物園・博物館所蔵 資料番号 9533)



3 参考資料 (北大植物園・博物館所蔵 資料番号 17736)



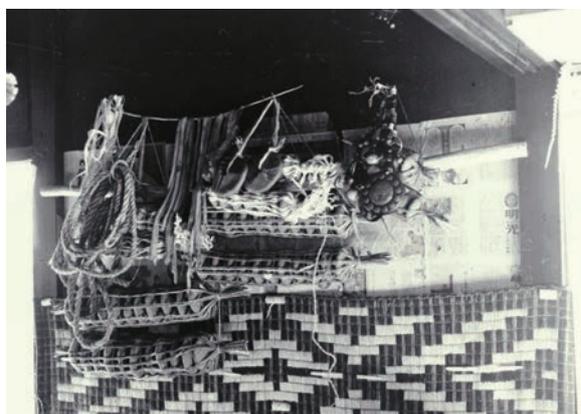
4 資料番号 180085・180086



5 参考資料 (北海道博物館所蔵 資料番号 179539)



6 資料番号 180073



7 参考資料 (北海道博物館所蔵 資料番号 179543)

図2 久保寺逸彦氏旧蔵資料① 他資料との対比から収集地が推定可能な事例



1 資料番号 180114



2 資料番号 180115



3 参考資料 (北海道博物館所蔵 資料番号 180035)



4 参考資料 (北海道博物館所蔵 資料番号 KP1236-094)

図3 久保寺逸彦氏旧蔵資料② 他資料との対比から収集時期が推定可能な事例



1 資料番号 180062



2 資料番号 180063



3 資料番号 180069



4 資料番号 180070



5 資料番号 180071



6 資料番号 180072



図4 久保寺逸彦氏旧蔵資料③



1 資料番号 180067



2 資料番号 180068



3 資料番号 180064



4 資料番号 180065・66



5 資料番号 180116



6 資料番号 180074



7 資料番号 180087~180089・180106・180110・180111



8 資料番号 180076

図5 久保寺逸彦氏旧蔵資料④



1 資料番号 180077 ~ 180080



2 資料番号 180107



3 資料番号 180105



4 資料番号 180100・180102



5 資料番号 180101・180103

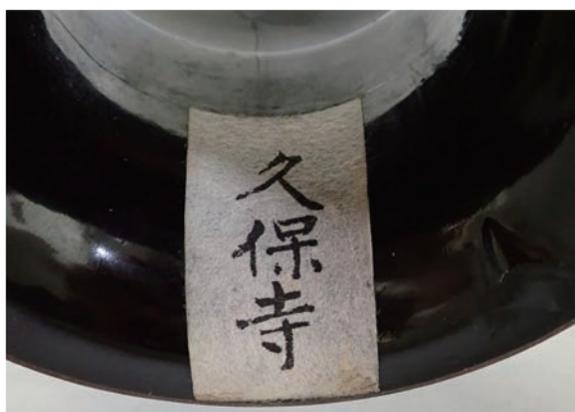


図6 久保寺逸彦氏旧蔵資料⑤



1 資料番号 180090



2 資料番号 180091



3 資料番号 180092 ~ 180094



4 資料番号 180095・180096



5 資料番号 180108



6 資料番号 180097



7 資料番号 180098



8 資料番号 180099

図7 久保寺逸彦氏旧蔵資料⑥



1 資料番号 185209 ~ 185212



2 資料番号 185213 ~ 185217



3 資料番号 185218 ~ 185221



4 資料番号 185222 ~ 185224



5 資料番号 185225 ~ 185228



6 資料番号 185229 ~ 185231



7 資料番号 185232・185233



8 資料番号 185234・185235

図8 阿寒湖熊送り儀礼関連資料①



1 資料番号 185236 ~ 185239



2 資料番号 185243



3 資料番号 185245



4 資料番号 185246



5 資料番号 185247・185248



6 資料番号 185240



7 資料番号 185241



8 資料番号 185242

図9 阿寒湖熊送り儀礼関連資料②



1 資料番号 185258



2 資料番号 185249



3 資料番号 185267



4 資料番号 185250



5 資料番号 185256



6 資料番号 185257



7 資料番号 185253



図10 阿寒湖熊送り儀礼関連資料③



1 資料番号 185266



2 資料番号 185252



3 資料番号 185255



4 資料番号 185259



5 資料番号 185260



6 資料番号 185254



7 資料番号 185261



8 資料番号 185262

図11 阿寒湖熊送り儀礼関連資料④



1 資料番号 185265



2 資料番号 185251



3 資料番号 185268・185269



4 資料番号 185270・185271



5 資料番号 185263・185264



6 資料番号 185272



7 資料番号 185244



図12 阿寒湖熊送り儀礼関連資料⑤



1 資料番号 185274



2 資料番号 185274 拡大①



3 資料番号 185274 拡大②



4 資料番号 185275



図13 その他送り儀礼関連資料①



1 資料番号 185276



2 資料番号 185277



3 資料番号 185278



4 資料番号 185279



図14 その他送り儀礼関連資料②



1 資料番号 185280



2 資料番号 185281



3 資料番号 185282

図15 その他送り儀礼関連資料③



1 資料番号 185283



2 資料番号 185284



3 資料番号 185285



4 資料番号 185286



図16 その他送り儀礼関連資料④



1 資料番号 185287



2 資料番号 185291



3 資料番号 185292



4 資料番号 185289



5 資料番号 185290

図17 その他送り儀礼関連資料⑤

表1 2019年新規登録資料一覧

収蔵番号	資料名	説明
184806	小刀	木製鞘、金属製刀身付
185143	小刀	貝澤守氏による平取町アイヌ文化博物館所蔵資料の複製
180062	編袋	縫り糸と縫りをかけない内皮を混用、一部黒染
180063	編袋	縫りをかけない内皮、一部黒染
180064	脚絆	一对、縫りをかけない内皮、一部黒染、死者用か
180065	死者用脚絆	一对、黒木綿に白木綿切伏、死者用手甲と結びつけられている
180066	死者用手甲	一对、黒木綿に白木綿切伏、死者用脚絆と結びつけられている
180067	葬送用広紐	白のみの15本編み、素材はイラクサ
180068	葬送用広紐	白8本、黒2本の10本編み、素材はシナ
180069	荷縄	経糸32本、緯糸素材シナ、緯糸編み技法C、緯糸素材麻か、耳4本、子負用か
180070	荷縄	経糸36本、緯糸素材木綿、緯糸編み技法B1、緯糸素材麻、耳4本、死者用か、模様入ゴザ製鞆に納められていた
180071	模様入ゴザ	ガマ、経糸シナ、染色したシナ内皮使用
180072	模様入ゴザ製鞆	内部に死者用荷縄を収める
180073	ロープ	イラクサ製、熊送り儀礼で使用したものか
180074	手甲	
180075	小物入れ	
180076	竹製口琴	
180077	捧酒箸	裏面に「北方文化展覧会記念 昭和廿一年八月十日」と筆書き、赤字で「久保寺」、紙ラベルあり
180078	捧酒箸	縄状装飾を浮き彫りにする、裏面に赤字で「久」
180079	捧酒箸	一部に漆が残る、裏面に赤字で「久」
180080	捧酒箸	漆塗り、裏面に赤字で「久」
180081	有翼酒箸	ヤナギ製、三翼、裏面に赤字で「久保寺」
180082	樹皮布	刺繍有り
180083	帯	化学繊維
180084	帯	化学繊維
180085-1	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-2	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-3	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-4	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-5	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-6	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-7	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180085-8	串	大、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-1	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-2	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-3	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-4	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-5	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-6	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-7	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-8	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-9	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-10	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-11	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-12	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-13	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180086-14	串	小、ヤナギ製、熊送り儀礼の熊神肉分配用か
180087	花矢	ノリウツギ製、先端赤布
180088	花矢	ノリウツギ製、先端黒布
180089	花矢	ノリウツギ製、先端削りかけ+赤布
180090	木製キセル吸口	ノリウツギ製、使用痕なし
180091	木製キセル吸口	ノリウツギ製、使用痕あり
180092	食食用箸	イチイ製、一对
180093	食食用箸	イチイ製、一对
180094	食食用箸	イチイ製、一对のうち1本は装飾部が破損
180095	衣紋掛け	イチイ製、麻紐付属
180096	衣紋掛け	イチイ製、麻紐付属
180097-1	鏝	竹製、
180097-2	鏝	竹製、
180097-3	鏝	竹製、
180097-4	鏝	竹製、
180098	鉾先	kiteの鏝、紐付属
180099	突鉤	marekの鉤、革紐付属
180100	天目台	蛸唐草、「久保寺」の紙ラベル
180101	天目台	法螺貝、「久保寺」の紙ラベル
180102	椀	蛸唐草、「久保寺」の紙ラベル
180103	椀	流水、「久保寺」の紙ラベル
180104	漆塗小箱	
180105	角皿	
180106-1	花矢矢柄	カラス羽根
180106-2	花矢矢柄	
180106-3	花矢矢柄	
180107	儀礼用冠	熊彫刻付き
180108	矢筒	表面を黒く塗る
180109	矢筒の蓋	白樺樹皮製、山田文庫の箱に混在していたもの
180110	花矢	羽根欠
180111	狩猟用矢矢柄・中柄	鏝欠
180112	棒状木製品	やや曲がった角材
180113	ダークバッグ	黒ブロード製、写真現像用
180114	木綿衣	胆振か
180115	木綿衣	日高か
180116	鉢巻	
180117	鉢巻	
180118	鉢巻	死者用鉢巻か
185209	撫長翅木幣	ヤナギ製、撫長翅6本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「キキンヌブリ」のマジック書き

収蔵番号	資料名	説明
185210	散長翅木幣	ヤナギ製、輪生短翅、刻印表裏に有り、「レブンカムイ」のマジック書き
185211	散長翅木幣	ヤナギ製、輪生短翅、刻印表裏に有り、「フップウシヌプリ」のマジック書き
185212	撚長翅木幣	キハダ材、撚長翅14本、刻印表裏に有り、「シカントコロカムイ」のマジック書き
185213	散長翅木幣	ヤナギ製、輪生短翅、刻印表裏に有り、「ピンネシリ」のマジック書き
185214	散長翅木幣	ヤナギ製、輪生短翅、刻印表裏に有り、「マツネシリ」のマジック書き
185215	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅7本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「日」のマジック書き、太陽神用
185216	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「ユクラムヌプリ」のマジック書き
185217	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「クネレカムイ」のマジック書き、脚部結束用ヤナギ樹皮付
185218	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、刻印表裏に有り、「月」のマジック書き、月の神用
185219	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅7本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「トーコロカムイ」のマジック書き
185220	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、頭部に羽角有り、「ニヤシコロカムイ」のマジック書き
185221	散長翅木幣	ヤナギ製、輪生短翅、刻印表裏に有り、「チュウシベツ」のマジック書き
185222	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅7本、刻印表裏に有り、「ワッカウシカムイ」のマジック書き
185223	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、頭部に羽角有り、「コタンコロカムイ」のマジック書き
185224	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅10本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「クマツナギボウイナウ」のマジック書き
185225	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「クマオリ4本組」のマジック書き
185226	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅6本、輪生短翅、刻印表裏に有り、「クマオリ4本」・「南」のマジック書き、脚部結束用樹皮付
185227	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅5本?、輪生短翅、刻印表裏に有り、「クマオリ4本組」・「東」のマジック書き、ササ付
185228	撚長翅木幣	ヤナギ製、撚長翅10本、刻印表裏に有り、「クマオリ4本」・「北」のマジック書き
185229	散長翅木幣	ヤナギ製、刻印表裏に有り、刻印及び頭頂部処理が多くのもとの異なる
185230	散長翅木幣	ヤナギ製、刻印表のみに有り、刻印及び頭頂部処理が他と異なる
185231	散長翅木幣	ヤナギ製、刻印表裏に有り、刻印及び頭頂部処理が他と異なる
185232	対生短翅木幣	ヤナギ製、下から上に向けて短翅を削りだす、囲炉裏灰が付着、火の夫婦神用
185233	逆削対生短翅木幣	ヤナギ製、上から下に向けて短翅を削りだす、火の夫婦神か
185234	撚長翅木幣	キハダ材、撚長翅8本、「左」のマジック書き
185235	撚長翅木幣	キハダ材、撚長翅6本、「右」のマジック書き
185236	散長翅木幣	ヤナギ製、散長翅を結束した状態であることから未使用と見られる
185237	散長翅木幣	ヤナギ製、散長翅を結束した状態であることから未使用と見られる
185238	散長翅木幣	ヤナギ製、散長翅を結束した状態であることから未使用と見られる
185239	散長翅木幣	ヤナギ製、散長翅を結束した状態であることから未使用と見られる
185240	熊神用耳飾	ヤナギ製、一対
185241	熊神用首飾	ヤナギ製、四宅ヤエ氏の指導のもとに藤村久和氏が作成
185242	熊神用背飾	ヤナギ製、絹布、ボンパケ、四宅ヤエ氏の指導のもとに藤村久和氏が作成
185243	剥幣	多数の剥幣が絡み合っているため、分離しない状態のまま保管
185244	清涼飲料瓶	ファンタ、熊神に送る直前に飲ませたもの
185245	剥幣付縄	
185246	剥幣付縄	
185247	笹束	
185248	笹束	
185249	棒状木製品	熊神頭部を固定する棒が製作中に折れたもの、別途新規に製作した
185250	熊神座棒	
185251	ロープ	
185252	木杵	4点の部品に分解されている、酒漉し用の杵
185253	矢	
185254-1	団子用串	
185254-2	団子用串	
185254-3	団子用串	
185254-4	団子用串	
185254-5	団子用串	
185254-6	団子用串	
185255-1	棒状木製品	引き縄の端部に固定して握りとするためのもの
185255-2	棒状木製品	引き縄の端部に固定して握りとするためのもの
185255-3	棒状木製品	引き縄の端部に固定して握りとするためのもの
185256	首挟み棒カ	
185257	首挟み棒カ	
185258-1	有翼酒箸	
185258-2	有翼酒箸	
185258-3	有翼酒箸	
185258-4	有翼酒箸	
185258-5	有翼酒箸	
185258-6	有翼酒箸	
185258-7	有翼酒箸	
185258-8	有翼酒箸	
185258-9	有翼酒箸	
185258-10	有翼酒箸	
185258-11	有翼酒箸	
185259-1	焼串	
185259-2	焼串	
185259-3	焼串	
185259-4	焼串	
185259-5	焼串	
185259-6	焼串	
185259-7	焼串	
185259-8	焼串	
185260-1	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-2	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-3	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-4	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-5	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-6	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-7	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-8	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-9	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-10	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185260-11	串	小、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185261-1	串	大、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185261-2	串	大、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用

収蔵番号	資料名	説明
185261-3	串	大、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185261-4	串	大、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185261-5	串	大、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185261-6	串	大、ハギ材、熊送り儀礼の熊神肉分配用
185262-1	串	留め串か
185262-2	串	留め串か
185262-3	串	留め串か
185262-4	串	留め串か
185262-5	串	留め串か
185262-6	串	留め串か
185262-7	串	留め串か
185262-8	串	留め串か
185262-9	串	留め串か
185262-10	串	留め串か
185262-11	串	留め串か
185262-12	串	留め串か
185262-13	串	留め串か
185263	木製鈎	大、解体時に心臓を吊り下げる
185264	木製鈎	小、解体時に胆嚢を吊り下げる
185265-1	褌	酒漉しの際に女性が身に着ける
185265-2	褌	酒漉しの際に女性が身に着ける
185265-3	褌	酒漉しの際に女性が身に着ける
185266	葡萄蔓製輪	
185267-1	棒状木製品	
185267-2	棒状木製品	
185268	ロープ	ガマ製、太、団子を刺した串を下げるためのロープ
185269	ロープ	ガマ製、細、団子を刺した串を下げるためのロープ
185270	ロープ	木片付、熊神を引くためのもの
185271	ロープ	木片付、熊神を引くためのもの
185272	熊神用食器	
185273	紐	
185274	キツネ頭骨の神体	白老町の個人宅旧蔵で所有者に不幸が続く原因を占い、送り儀礼をおこなった後に収集されたもの
185275	タヌキ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185276	キツネ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185277	タヌキ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185278	キツネ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185279	タヌキ下顎骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185280	ウサギ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185281	ウサギ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185282	ヒグマ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185283	ヒグマ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185284	ヒグマ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185285	ヒグマ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185286	ヒグマ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185287	ヒグマ頭骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185288	ヒグマ部分骨	千歳市桂木在住の個人宅の祭壇に祭られていたもの
185289	熊神へのお土産	白老町で実施されたイオマンテの際に栃木政吉氏が製作したもの
185290	熊神頭部の飾り	白老町で実施されたイオマンテの際に栃木政吉氏が製作したもの
185291	ヒグマ頭骨	石狩市の猟師が捕獲したものを藤村氏が譲り受けたもの
185292	ツキノワグマ頭骨	和人猟師が捕獲したものを栃木政吉氏が依頼を受けて送ったもの

表2

収蔵番号	科名	Family	種名	Species.	現存部位
185274	イヌ	Canidae	アカギツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	頭蓋・下顎・皮（一部に毛）
185275	イヌ	Canidae	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	頭蓋
185276	イヌ	Canidae	アカギツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	頭蓋
185277	イヌ	Canidae	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	頭蓋
185278	イヌ	Canidae	アカギツネ?	<i>Vulpes vulpes</i> ?	頭蓋（部分）
185279-1	イヌ	Canidae	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	右下顎
185279-2	イヌ	Canidae	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	左下顎
185280	ウサギ	Leporidae	ユキウサギ	<i>Lepus timidus</i>	頭蓋
185281	ウサギ	Leporidae	ノウサギ属の一種	<i>Lepus</i> sp.	頭蓋（部分）
185282	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋
185283	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋
185284	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋
185285	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋
185286	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋・下顎・筋
185287	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋・下顎
185288					部分骨6点・歯
185291	クマ	Ursidae	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	頭蓋
185292	クマ	Ursidae	ツキノワグマ?	<i>Ursus thibetanus</i> ?	頭蓋・下顎・皮

*は計測を行わなかった部分

-は計測部位が破損・欠損したため計測不能

収集年	収集地	収集者	図版番号	備考
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：7	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：7	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：7	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：7	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：8	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：5	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：5	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：1	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：1	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：1	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図11：1	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図10：3	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図10：3	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：3	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：3	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：4	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：4	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	図12：6	
1975年	釧路市阿寒町阿寒湖温泉	藤村久和	非掲載	
	白老町	藤村久和	図13：1～3	
	千歳市桂木	藤村久和	図13：4	
	千歳市桂木	藤村久和	図14：1	
	千歳市桂木	藤村久和	図14：2	
	千歳市桂木	藤村久和	図14：3	
	千歳市桂木	藤村久和	図14：4	
	千歳市桂木	藤村久和	図15：1	
	千歳市桂木	藤村久和	図15：2	
	千歳市桂木	藤村久和	図15：3	
	千歳市桂木	藤村久和	図16：1	
	千歳市桂木	藤村久和	図16：2	
	千歳市桂木	藤村久和	図16：3	
	千歳市桂木	藤村久和	図16：4	
	千歳市桂木	藤村久和	図17：1	
	千歳市桂木	藤村久和	非掲載	
	白老町	藤村久和	図17：4	
	白老町	藤村久和	図17：5	
	石狩市厚田	藤村久和	図17：2	
	恵庭市	藤村久和	図17：3	

頭骨 最大長	基底全長 CBL	P1-P3	P4-M2	翼状骨間窩の幅	骨口蓋橋の 前後長最狭部	下顎骨長
141.0	137.4	-	-	*	*	*
111.9	111.7	16.2	21.1	*	*	*
-	112以上	-	-	*	*	*
110.8	110.5	15.5	20.2	*	*	*
-	-	25.5	22.4	*	*	*
*	*	*	*	*	*	86.3
*	*	*	*	*	*	82.5
90.0以上	-	*	*	9.5	8.4	*
-	-	*	*	9.5	8.7	*
275以上	-	*	*	*	*	*
307	289	*	*	*	*	*
292	288	*	*	*	*	*
227以上	-	*	*	*	*	*
313	293	*	*	*	*	*
248以上	-	*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
290	285	*	*	*	*	*
193	215	*	*	*	*	*

(単位：mm)

Ainu Folkcrafts of the Former Collection of KUBODERA Itsuhiko and Other Objects:

Introduction New Acquisitions to Hokkaido Museum's Collection in 2019

OSAKA Taku, KAMEMARU Yukiko and SUZUKI Asumi

In 2019, the Hokkaido Museum Ainu Culture Research Center received two donations including two folkcraft articles. Ongoing confirmation and cataloguing of unregistered folkcraft articles stored at the museum has been completed for: 82 articles formerly in the collection of Ainu culture researcher KUBODERA Itsuhiko (1902-1971); 119 articles related to the bear-sending ritual held at what is now Akan Kohan, Akan-cho, Kushiro-shi in 1975; and 19 articles related to other sending-off rituals, for a total of 222 articles. This paper summarizes these new objects.

Of these objects, it is presumed that those col-

lected by Professor Kubodera are from throughout his entire research career, which lasted from the 1930s to the 1960s. Regrettably, Professor Kubodera did not leave any notes of the locations or dates of collection. The attached tags do not contain any information about the materials, and simply mark the items as belonging to him. This is a complete departure from the collections of other researchers of this period who were trained in zoology and botany. This likely reflects Professor Kubodera's lack of specialized training in the systematic organization of material culture articles.